

洋外来語の使用をみつけた。

ことなし（事無し）：セックスが行なわれなってしまうこと。

用例としては、『源氏物語』「須磨の巻」の「ことなしにて過ぐしつる年ごろもくやしう」をあげている。

また、辞書ではないが、学習便覧につきのような「スポーツ」の使用例をみつけた。

「蹴鞠・競射・小弓などスポーツも盛んで、蹴鞠はのちになって芸道にまで高められた。」（『ハイビジュアル国語資料館』中央図書1991年）

古語辞典の語釈をはじめ、古典の、注釈書・翻訳書・研究書等において、どのような西洋外来語がどのように使用されているのか。これも解明すべき興味ぶかい問題である。

文献

〔語彙資料〕

石綿敏雄編（1990）『基本外来語辞典』東京堂出版。

金田一京助編（1943）『明解国語辞典』三省堂（調査には復刻版（1997）を使用。）。

阪田雪子監修（1995）『日本語を学ぶ人の辞典』新潮社。

国立国語研究所編（2004）『分類語彙表——増補改訂版』大日本図書。

（株）専門教育出版『日本語学力テスト』運営委員会編（1998）『改訂 品詞別・A～Dレベル別 1万語語彙分類集』専門教育出版。

〔論文〕

石綿敏雄（2001）『外来語の総合的研究』東京堂出版。

大島中正（1995）「日本語辞書の意味記述のあり方を考える」『同志社女子大学学術研究年報』46—IV。

——（1999）「日本国内で刊行された日本語教育用辞書の概観」『同志社女子大学総合文化研究所』16。

——（2002）「語釈にはどんな音象徴語が使用されているか——『例解新国語辞典（第四版）』を調査資料として——」玉村文郎編『日本語学と言語学』明治書院。

佐竹秀雄（1989）「辞書」『ケーススタディ 日本語の語彙』おうふう。

佐治圭三（1996）「日本語教育と語彙」『国文学 解釈と教材の研究』41—11学燈社。

柴田 武（2002）「国語辞書はどうあるべきか」『現代日本語講座 第4巻 語彙』明治書院。

玉村文郎（1990）「辞書」『講座日本語と日本語教育 第7巻 語彙・意味（下）』明治書院。

——（1991）「日本語における外来要素と外来語」『日本語教育』74。

——（1995）「外国人のための日本語辞書の構想」『月刊言語』24—6大修館書店。

——（2002a）「現代日本語の意味構造」『現代日本語講座 第4巻 語彙』明治書院。

——（2002b）「対照語彙論」『朝倉日本語講座 第4巻 語彙・意味』朝倉書店。

中野 洋（1985）「語義記述法の問題点」『朝倉日本語新講座 第4巻 文法と意味Ⅱ』朝倉書店。

村木新次郎（1987）「対義語の輪郭と条件」『日本語学』6—6明治書院。

——（1989）「現代語辞典の輪郭」『国文学 解釈と鑑賞』54—1至文堂。

顔合わせ：対面。会合。かほよせ。

合宿：同じ・宿（家）に一緒にとまること。

壁を破る：項目なし。

観客：項目なし。

決まる：①さだまる。②終る。をさまる。

決める：①定める。②約束する。③なじる。

ファン：①扇。②〔米語〕熱心な愛好者。熱狂者。

放送：〔ラジオで〕ニュース・講演・演芸等を送ること。

ユニホオム：①制服。②揃ひの運動服。

わざ（業）：①しわざ。②しごと。つとめ。③しかた。④仏事。⑤こと。有様。

ワンピース：項目なし。

ここには、「スポーツ」という西洋外来語の使用はみられない。「スポーツ」自体は、見出し語として掲出されている。「スポーツ」：①娯楽。なぐさみ。②運動（競技）」「ユニホオム」の語釈に「運動服」という「運動」を要素とする単語が使用されていることが興味深い。現在なら「スポーツ」が使用されうる見出し項目に対して、かつては「運動」がどのように語釈に使用されていたのかを精査すれば、語彙史における「スポーツ」と「運動」の1側面がうかがいあがってくるかもしれない。今回の調査範囲にはふくまれていないが、「競技」の語釈をしらべると、『日本語を使う人の辞典』では「スポーツ」が使用され、一方、『明解国語辞典』では「運動」が使用されていた。

きょうぎ（競技）：スポーツの試合などで、勝ち負けや技を争うこと。（『日本語を学ぶ人の辞典』）

きょおぎ（競技）：①互に技術をくらべて優劣を争ふこと。②多人数が一定の規約のもとに優劣を争ふ運動。運動競技。（『明解国語辞典』）

4. おわりに

以上、現代語辞典の語釈に使用されている西洋外来語を問題にしてきたが、古語辞典の語釈には西洋外来語は使用されないのであろうか。いうまでもなく、古典語を対象として現代語によって語釈するのが古語辞典である。

偶然ではあるが、『新明解古語辞典（補注版 第二版）』（編者：金田一春彦・三省堂編修所 1974年三省堂から発行）の「ことなし（事無し）」の第2義につぎのような西

「スポーツ」は「日本語能力試験」における4級の単語でもある。ちなみに類義の漢語である「運動」は3級（初級修了レベル）の単語であり、おなじく類義の漢語「体育」は2級（中級修了レベル）の単語である。

一般的に、ある単語によって語積されている単語・語結合は、その語積用語を軸としてとらえることのできる広義の関連語である。今回の小調査でいえば、「顔合わせ」「合宿」「ワンピース」「決める」等の10の単語と1つの語結合「壁を破る」は、「スポーツ」を軸としてとらえることのできる（広義の）関連語である。品詞や語種は必ずしもおなじではない。これらの単語・語結合は、従来の意味分類体の辞書で「スポーツ」という単語が所属する意味分野をしらべても、同時にえられるものではない。たとえば、『分類語彙表（増補改訂版）』でこれら11の単語・語結合の所属先を調査すると、つぎのようになる。

- ・「ファン」・「観客」は「1. 2 体の類 人間活動の主体」に属する。
- ・「放送」・「合宿」・「顔合わせ」・「技」は「1. 3 体の類 人間活動」に属する。
- ・「ユニホーム」・「ワンピース」は「1. 4 体の類 生産物および用具」に属する。
- ・「決まる」・「決める」は「2. 3 用の類 人間活動」に属する。
- ・語結合「壁を破る」は、掲出されていない。

以上は、大項目のみをしめしたものだが、所属先がまちまちであることは、十分に示ることができよう。

単語、あるいは慣用性や固定性のみとめられる語結合の相互の意味上の関連性をとらえることは、語彙研究の最重要課題といってもよいであろうが、それは至難の業である。しかし、語積用語を軸として、それに直接・間接に関連している単語・語結合をとりだすことは、たとえ不完全なものであったとしても研究上、意義のあることであろう。あるいは、語積用語をキーワードとして既知または未知の関連語を検索することができるような語彙資料を作成することは言語教育において有意義であろう。

いずれの作業を目的とするにしても、語積の方法・用語・構文等が十分に検討された、内容の充実した辞書の存在が前提となる。

3. 『明解国語辞典』の語積との比較

西洋外来語「スポーツ」について、『基本外来語辞典』は、その使用普及時代を「戦前昭和の時代」としている。

2でとりあげた11の単語・語結合の語積を、『明解国語辞典』（復刻版）によって調査すると以下のものであった。

(ブラシ) ナレーター (語り手) ニックネーム (あだ名) ◎ノート (ページ) バレーボール (アウト) バランス (かたよる) バイオリン (楽器) ハンマー (かなづち) パーティー (プログラム) パスポート (旅券) ヒント (一を聞いて十を知る) ピストル (武器) フルート (楽器) プラスチック (かご) プロテスタント (牧師) プライド (誇り) ヘリウム (風船) ブロック (塀) ベア (ベースアップ) ◎ベル (目覚し時計) ベースボール (野球) ホテル (ボーイ) マーク (ブランド) マイクロ (マイクロフィルム) マフラー (オートバイ) ミリメートル (ミリ) メイン (メイン) メンバー (会員) ユニフォーム (ユニホーム) ライオン (ほえる) ライスカレー (ライスカレー) ラグビー (レモン) レール (モノレール) リング (ボクシング) リポート (レポート) レンズ (色眼鏡) ◎レストラン (ボーイ) レモン (黄色) CD (録音) ◎0 (ゼロ) (プラス)

上記のリストにおいて、「スポーツ」「テレビ」「ラジオ」等には◎が、また、「チャンス」「チーム」「メロディー」等には○がついている。これらの西洋外来語は、玉村文郎(1991)における「基本外来語170語」のリストにあるものである。◎の単語は、生活に直接関係する最重要語100語に属する単語であり、○の単語は、学習関係語彙を中心とした次重要語70語に属する単語である。

今回の調査の範囲で、最も多く使用されていたのは、「スポーツ」である。その実際の使用状況は、以下のとおりである。(本稿における下線はすべて大島がほどこした。)

顔合わせ：演劇やスポーツなどで、一緒に出たり、対戦したりすること。

合宿：一緒に泊りこんで集中的にスポーツの練習や、研究などを行うこと。

壁を破る：障害を越える。スポーツでは、今までの記録よりいい記録を出す。

観客：演劇やスポーツなどの見物人。

決まる：スポーツなどで、技がうまくいく。

決める：スポーツなどで、技をうまく行う。

ファン：映画、演劇、スポーツ、またその俳優や選手などを好きで夢中になっている人。

放送：ラジオやテレビなどで、ニュース、音楽、スポーツなどを伝えること。

ユニホーム：制服。特にスポーツで、同じチームの人たちが着る、色や形が同じ服。
ユニフォーム。

わざ (技)：スポーツや工芸などで、訓練して身につけた技術や腕前。

ワンピース：女の人や子供の、また、スポーツや仕事用の衣服で上と下を続けて1枚につくってあるもの。

されている西洋外来語と語釈されている見出し項目（単語または語結合）とを抽出した。その結果は、以下のとおりである。

なお、西洋外来語の認定については『基本外来語辞典』（編者：石綿敏雄，1990年に東京堂出版より刊行。調査には1998年の4版を使用。）を参照した。

・語釈に使用されている西洋外来語とその見出し項目（単語・語結合）のリスト

◎スポーツ（顔合わせ 合宿 壁を破る 観客 決まる 決める ファン 放送
ユニホーム）

◎テレビ（アナウンサー 画像 音声 カメラ 放送 本番 マスコミ ライブ）
グループ（かしら 合唱 幹事 門 若手）

◎ラジオ（アナウンサー 音声 放送 本番 マスコミ ライブ）

◎インク（かすれる ペン 万年筆）

◎ボール（アウト 野球 レモン）

○チャンス（機に乗ずる／乗じる 機を見るに敏 芽が出る）

インド（仏教 綿）

◎ゲーム（かける かるた）

○チーム（野球 ユニホーム）

◎テープ（カラオケ 録音）

◎ニュース（アナウンサー 放送）

◎ビニール（温室 かばん）

◎フィルム（マイクロフィルム 焼く）

○メロディー（演歌 節）

アクリロニトル（アクリル） ◎アパート（大家） アルバイト（副業） アクセサ

リー（ブローチ） ◎インキ（インク） インフルエンザ（ウイルス） イギリス
（ウイスキー） ウイルス（肝炎） エジプト（綿） エネルギー（核） カレー（カ

レーライス） ◎カーテン（レール） ◎ガソリン（油） ◎ガス（エネルギー） カ
リキュラム（課程） ○かるた（札） ○カード（札） キャンデー（飴） クッキー

（菓子） ケーキ（いちご） ◎ゴム（風船） ○コンクリート（プール） サングラ
ス（色眼鏡） ○サイン（合図） ジャム（いちご） ◎シャツ（ブラウス） ◎スカ
ート（ミニ） スコットランド（ウイスキー） ○スピード（リニアモーターカー）

セーター（編み物） ◎ソース（マヨネーズ） たばこ（ふかす） ○テニス（アウ
ト） テーマ（演歌） ◎テーブル（カフェテリア） デザイナー（ブランド） ○ド
ラマ（語り手） ○トランプ（札） ドロップ（飴） ◎ナイフ（刻む） ナイロン

B-1-2. 見出し語の対義語の否定表現による。③

B-2. 見出し語の非同位語を使用する。

B-2-1. 見出し語の下位語を使用する。④

B-2-2. 見出し語の上位語を使用する。⑤

B-3. 意味特徴を述べる。⑥

①は、たとえば、「ネット」を「バレーボールやテニスで、ボールがネットにかかること。」というふうに語積にもちいる。多義語の語積において有効な方法ではないだろうか。②は「インク」を「インキ」で、「ユニホーム」を「ユニフォーム」で語積するような場合から、「副業」を「アルバイト」で、「合図」を「サイン」で、「色眼鏡」を「サングラス」で語積するような場合まで、その種類は多様である。③は、「ない」を「存在しない」・「持っていない」と語積するような場合である。④は、「球技」を「野球・テニス・サッカーなど」と語積するような場合で、⑤は、「野球」・「テニス」・「サッカー」等を語積する場合に「球技の一種」などとするようなものである。⑤と⑥とをくみあわせたものが、もっとも理想的な語積で、狭義のあるいは典型的な定義とよぶにふさわしい。たとえば、「球技」を「ボールを使ってするスポーツ」と語積するような場合である。「ボールを使ってする」の部分が「意味特徴」であり、「スポーツ」が（「球技」の）上位語である。

①～⑥が単独でまたはくみあわされて実際の語積がおこなわれる。これら6種類の方法は、名詞・動詞・形容詞（形容動詞をふくむ）それに情態副詞に有効で、程度副詞・陳述副詞・連体詞・接続詞・感動詞については、別の方法をかंगाえなければならないであろう。また、助詞・助動詞類については単語とみとめる立場とみとめない立場とがあるが、いずれにしても、その性質についての記述には別の方法が工夫されなければならない。

2. 西洋外来語「スポーツ」とその関連語

西洋外来語は、現在、増加の一途をたどっている語種である。語積にはどのような単語がどのように使用されているのか。これは西洋外来語に限らず不明な点の多い問題であろうが、ここでは、「スポーツ」という単語を1例としてとりあげてみたい。

『日本語を学ぶ人のための辞典』（監修：阪田雪子，編集主幹：遠藤織枝，編集：にはんごの会，見出し語数：約11000語，1995年に新潮社より発行。）は、日本語学習者を対象にした、日日辞典である。今回、試みにこの辞書の1部分（1ページから235ページおよび840ページから1074ページ、それぞれの奇数ページ）を対象として、語積に使用

語釈用語から何がわかるか

——西洋外来語「スポーツ」を例として——

大 島 中 正

はじめに

この論文では、現代日本語の辞書における語釈を言語資料として下記の(1)・(2)のような研究がかんがえられることを、西洋外来語の「スポーツ」を例としてのべる。

- (1) 語釈用語と語釈される単語・語結合とを収集して、従来の意味分類体の辞書からはえられなかった単語間の意味上の関係をあきらかにする研究。
- (2) 作成・刊行された時期にへだたりのある複数の辞書を対象として、その語釈用語を比較することによって、語釈用語そのものの日本語語彙の中にしめる位置の変化などをあきらかにする研究。

(1)は語彙の共時的研究であり、(2)は語彙の通時的研究である。

1. 語釈について

「語釈」とはなんであろうか。まず、「語釈」の語釈をしておこう。わたくしは、つぎのようにかんがえている。

語釈とは、ある単語またはある語結合の意味を、他の単語または他の語結合を使用して表現すること。またその表現されたもの。その行為の目的および、その表現されたものの存在意義は、辞書の使用者が当該の単語または当該の語結合の意味を正確に理解し、適切に使用できるようにみちびくことにある。

上記の語釈には、「他の単語または他の語結合を」どのように「使用して表現するか」という点がしめされていない。わたくしは、語釈の方法を、語釈される見出し語と語釈用語との関係に着目して、次の6種類に分類してみた。

- A. 見出し語を語釈に使用する。①
- B. 見出し語を語釈に使用しない。
 - B-1. 見出し語の同位語を使用する。
 - B-1-1. 見出し語の類義語を使用する。②